

まちづくり調査特別委員会会議録

- 1 開会日時 令和5年8月21日（月）午前10時0分
- 2 閉会日時 令和5年8月21日（月）午前11時41分
- 3 会議場所 熊山支所大会議室
- 4 出席委員

| | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1 番 牛尾 直人君 | 2 番 鼻岡 美保君 | 3 番 安藤 利博君 |
| 4 番 永徳 省二君 | 5 番 大森 進次君 | 6 番 光成 良充君 |
| 7 番 保田 守君 | 8 番 大口 浩志君 | 9 番 治徳 義明君 |
| 1 1 番 金谷 文則君 | 1 2 番 松田 勲君 | 1 3 番 福木 京子君 |
| 1 4 番 佐藤 武文君 | 1 6 番 実盛 祥五君 | 1 7 番 佐藤 武君 |
- 5 欠席委員

| | |
|--------------|--------------|
| 1 0 番 原田 素代君 | 1 5 番 下山 哲司君 |
|--------------|--------------|
- 6 説明のために出席した者

| | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 総合政策部長 倉本 貴博君 | 財 務 部 長 杉原 洋二君 |
| 建設事業部長 高橋 渉君 | 赤坂支所長 小坂 憲広君 |
| 熊山支所長 稲生真由美君 | 吉井支所長 中務 浩行君 |
| 総合政策部参与兼 建設事業部参与 岡本 和典君 | 政策推進課長 山崎 和枝君 |
| 地域整備推進室長 森本 祐司君 | 政策推進課主査兼 地域整備推進室主査 池田 純君 |
- 7 事務局職員出席者

| | |
|---------------|--------------|
| 議会事務局長 土井 常男君 | 副 参 事 野田 順子君 |
| 主 任 平尾 和也君 | |
- 8 協議事項 1) 視察について
2) その他

午前10時0分 開会

○委員長（金谷文則君） それでは、皆さんおはようございます。

ただいまからまちづくり調査特別委員会を開会いたします。

換気のため、会議室の出入口を開けたまま進めさせていただきますので、御了承のほどよろしくをお願いいたします。

また、原田委員が公務と重複しているため、欠席届がございましたので、御報告いたします。原田委員は監査委員で、本日、月例の出納検査ということでございます。それから、下山委員も本日欠席ということで届けがありましたので、御報告させていただきます。そして、戸川総務部長から欠席の報告を受けておりますので、このこともお知らせしておきます。

それでは、協議事項に入る前に、タブレットへちょっと入れておきましたが、最初この会を始めたときにどうやって進めていこうかと皆さんにお諮りして、こういう形で進めていこうと一応合意した中で進めさせていただいております。その中で、まず研修会をしようかっていうのがこの間からお話がありまして、今執行部にも調整していただいているんですが、先方との都合がなかなかちょっと合いませんので、いついつどうということがまだ決定されておられません。

その中で、立地適正化計画という一番大きな皆さんの関心事のものが、一応素案が出来上がって、それを8月28日の都市計画審議会にかけるところまで今物が進んでいっております。その中で、ここでせっかくの委員会ができた当初のことを振り返ってみますと、決められたものを速やかに進めるような協力をすることと、立地適正化計画の中に含まれる拠点整備エリアのところだけの振興ではなくて、赤磐市全体の振興とともに全体計画をもう一遍しっかり見直す必要があると、そういうところについても議論をしましょうという形で皆さんと進めさせていただいたかと思えます。

実際にこの委員会の中で、まだ具体的にそういうことについて協議なり視察なりというのが行われておりませんので、ちょっとペーパーとして1枚入れております中で、もう一遍まちづくりの基本的な考え方というのが、市がまとめてあるものがあります。その中で、具体的にじゃあ赤磐市の中でそのことについて何か問題があるのか、何が問題なのか、問題ではないのかというようなことを改めて見ていただきたい。だから、この計画の中、基本的な考え方というのが、前の立地適正化計画でまとめられとる中にも記述されておりますので、再度委員の皆様方にはそれを確認いただいて、問題があればここで議論の対象にしていきたいと思っておりますので、御意見を出していただきたいと思えます。それが今日のペーパーの中の第1番目で、これを今後協議しなきゃいけない1つとして挙げております。

それから、もう一つは、その中で都市機能の誘導区域外、要は先ほど申し上げた、今回立地適正化計画をつくっていったところよりも、その外のエリア、旧町の赤坂とか吉井とかそれから熊山とか山陽のそのエリアでないところというところを、どうやって同じような歩調の中

で進めていくのかということについて、これが大きな問題であるというのがこの会のそもそものスタートになった話題でございますので、このことについてもう一度しっかり意見を出していただきたい、協議をしていきたいと思っておりますので、皆さんも多分そういうふうに思っておられると思いますので、そのことについて協議をお願いしたいと思っております。

それから、最後に新拠点の整備で公共ゾーンの整備ということで、今、ここで勉強会なんかをという話が進んでおります道の駅の関係について、これは先ほど申し上げたようにちょっと講師との調整がなかなかついておりませんので、先に執行部がいろいろ調査した中で、視察等に行ったらどうかという提案も今日話をさせていただくようになっておりますので、その中で皆さんに御協議いただいて、じゃあ先にそういうところへ行こうということになれば、今年予算的にはまだ取っておりませんので、できるだけ経費のかからない形で近いところで参考になる場所があれば、ぜひ勉強のために視察をして、それから意見交換をするという形を取らせていただければなと考えております。

そして、いろんなところで出たものについては、しっかりこの委員会で出た意見等をまとめて市長へ出していききたいと。それを反映するか反映しないかは市長のお考えかと思っておりますけれども、我々としてはこういうふう考えた、こういうふうにまとめたというものをできるだけ早い時期に、できたものから順番でもいいと思っておりますが、出していききたいと思っております。そのことについて簡単にまとめたペーパーをタブレットの中に入れておりますので、御確認いただきたいと思っております。

それで、前段階のお話はそういうことで、実際にこれから協議事項に入らせていただきたいと思っております。

今ちょっと申し上げたような方向で進めたいと思うんですが、いかがでございましょうか。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 委員長の考え方についてはよく理解できるんですけど、このまちづくり調査特別委員会というのは、赤磐市の旧来の山陽、赤坂、熊山、吉井、それを含めてどういうまちづくりにしていくかということが私は大切ではないかと。今我々が先行しておりますのは、20年前に河本、岩田地区の開発の計画があったときに、そのメイン事業として道の駅構想があったのは事実です。道の駅構想があった中で、道の駅をやらなければならない、赤磐市の発展のためには道の駅を設置しなければならないという考え方の中で、20年間足踏みをしてきておる状況です。

その中で、私は最近、市民の方と話をしている中で、随分市民の考え方が変わってきたなという実感をしております。その中で、全体構想であそこの位置に道の駅がいいのか悪いのか、そういうことを私は先に考えるべきで、道の駅が先行して、何が何でもあそこに道の駅が要るんだ、道の駅を設置しなければならないという考え方じゃなしと、もう少し赤磐市のまちづく

りはどうあるべきかという考え方の中に立って、もう一度再検討すべきではないかなという、私は最近考え方がちょっと変わってきとるんです。そういうことを私は全体構想の中へ捉え、どうかということを検討していくべきではないかと考えておりますので、委員の皆さんの意見はどうか分かりませんが、そういうやり方のほうがいいんじゃないかと思ってます。

○委員長（金谷文則君） 他に御意見はございませんでしょうか。

福木委員。

○委員（福木京子君） やはりそのまちづくりは新拠点のそこをずっと行って、あと旧3町を遅れてということにはならないと思う。やっぱり全体のまちづくりをどう発展させていくかということですので、予算のつけ方にしても新拠点には要としてもバランスよく予算を使って、やっぱり全体のまちをよくしていくというやり方を絶対しないといけないと思います。

それから、あとはパブリックコメントでいろんな意見が出されてると思いますが、それにきっちり丁寧に市は答えていかないといけないと思います。ちょっとそれを見ますと、やはり疑問に思ってるのは皆同じような共通の疑問があると思います。本当にその道の駅が要るのか。バスターミナルがなぜあそこじゃないといけないのか。今でさえその疑問がまだまだあると思います。それに対する丁寧な説明が要ると思います。

それから、この第1のところ読みますと、区長会ごとという提案もありますが、やはり観光行政みたいな部分も入ってるんで、区長会だけでなくやっぱり商工会やJA、こういうところの声もしっかり聞いて反映させていかないと、全体のことにはならないんじゃないかなと思います。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

他に御意見ございませんでしょうか。

松田委員。

○委員（松田 勲君） 皆さんの思いがいろいろあると思うんですけど、私はもう最初に金谷委員長が言われたような流れでやればいいんじゃないかなと、ここでいろいろ言われてはいるんですけど、そうなるもまた話がどんどん広がって行って、前に進まないような気がしますので、最初に当初言われた立地適正化計画の区域を中心に、それに倣って全体のことも都市計画があるわけですから、その辺を再確認する意味ではすればいいかと思うんですけど、やっぱり今必要などこからしっかりとやっていくべきだと思います。

○委員長（金谷文則君） 安藤委員。

○委員（安藤利博君） 執行部がやられようとしてるのは、具体的に言えばもう道の駅ですけど、それはそれで構わないと思うんです。けど、道の駅について、腰を折るようで申し訳ないですけど、過剰反応されてます。委員長まとめられてますけど、立地適正化計画は都市計画区域の中の話なんで、それはそれで構わないと思うんですけど、今の佐藤委員とか福木委員もおっしゃられました。それから委員長もまとめられてますけど、ほかの地域もあるんでその辺の

バランスを考えないと、何か今立地適正化計画イコール道の駅に過剰反応しているように思います。やっぱり赤磐市全体のことをバランスよく考えていかないといかんのではないかなと思うんで、委員長のまとめられているこの方向でいいと思います。

○委員長（金谷文則君） 他に御意見ありませんでしょうか。

基本的には我々議会としては、立地適正化計画のことについては、大枠の中で道の駅を含んだゾーンを3つに分けて、公共ゾーンとその他2つのゾーンを足した中で、河本、岩田地区に計画を持って行って、その地域をまず南部広域の県内の制約とそれから土地の地目等の変更をかけていかないとその先が前に進まないということで今の計画ができて、それも国、県との協議をしながら現状まで至っているというのは事実で、その中には、ここに道の駅というようなものをつくるという構想を入れたものの中で物が進んでくるといえるのは、これはもう事実です。

先ほど御意見がありましたように、そういうふうに進んでいるにもかかわらず、まだまだ市民を含めて、その道の駅をつくったり、そこで本当に場所がいいのかという意見が、具体的にこの立地適正化計画のお話が皆に浸透し出してから、どんどんまた声が大きくなってきたというのも事実だと思うんです。

だから、今制度上、立地適正化計画という計画書を作って都市計画審議会へかけなきゃいけないというこれはもう決まった路線でありますので、それにかけてもらうしかないと思いますが、我々議員としてこの特別委員会ができた以上は、先ほど言われました佐藤委員や福木委員や安藤委員の御意見のように、要は出てきた意見をないがしろにするというわけには我々議員としてはいかないと思いますので、そのことについては、計画は確かにできておりますが、それがおかしいということになればそれはまた変更してもらわざるを得ないと思います。

この間、産業建設常任委員会の中でもその話があって、必要ということになれば、その中の変更をそれはせざるを得ないでしょうということで、でもよっぽどの理由がない限りそれを変えるということはないかと思えますけども、一番適正なものにするというのが、違つとれば直さなきゃいけないし、違ってなければそのままやっぱり進んでいかなきゃいけないということをしっかり我々議員の中で議論をして、それから一番は市民だと思いますので、市民の声を反映できる形で納得していただけるような今回の大きな事業計画をしていく。決まればそれに皆で協力するというのが我々の仕事だと思いますので、今の道の駅の必要性があるのかどうかという一番原点に戻る大きな問題も今提起されておりますので、このことについても次からの委員会の中で1つずつ協議して行って、何で必要でないのかとか必要なのかとかというようなことも、後ればせになるかもしれませんが議論、検討し、その結果はきちっと市長に伝えていくという形をとっていきたいと思いますが、いかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） では、執行部の皆様、今委員からそういう御意見もありましたので、十分その辺のところも尊重いただいて、前に進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

それでは、続きまして協議事項の1番目で、まずその視察、前回からの引き続きのことがありますので、執行部から説明をお願いいたします。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本総合政策部参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） それでは、資料の①視察報告資料をお開きください。ちょっとページ数が多くて写真が多いので、開くのに時間がかかるかも分かりませんが、道の駅先進事例視察報告という資料を御覧ください。

今委員長からも御案内いただきましたように、前回6月の当委員会におきまして、関東方面の道の駅を視察させていただいて御紹介をさせていただいて、そのうちの運営事業者にこちらへ来ていただいて研修会のような形でということでお話を終えていたと思います。その後、運営事業者と調整をさせていただいておりましたが、ほかの事業に取り組んでおられるということもあって、ちょっと今年度に関してこちらへ来るということの日程が取れないということで、調整が難航しております。

皆様に大変御迷惑をおかけしておりますので、再度、委員長とも御相談させていただいて、中国地方あるいは四国あたりの近隣の道の駅で探してはどうかということで、再度執行部で視察を何か所かさせていただきましたので、今日そちらを御紹介させていただいて、ここならというところがございますら、場所が近くでございます。大体どこも片道2時間から2時間半ぐらいで行ける場所ばかりですので、できれば、今日お話を聞いていただいた中で、どちらかを視察という形を取っていただけたらということで、御提案させていただけたらと思います。

それでは、資料に従いまして御説明させていただきます。1枚おはぐりいただきまして、①から順番に説明をさせていただきたいと思ひます。

1番目が、道の駅ふおレスト君田でございます。広島県の三好市でございます。人口約5万人、当初予算規模が350億円というところでございます。

6ページまで飛ばしてください。

こちらは第三セクターによる運営を行っておりまして、施設としては温泉宿泊施設がメインとなっております。産直市場は、地元の農家さんの出荷グループによる自主運営という形を採られております。あと、以下写真は順次御参考に御覧いただけたらと思ひます。

12ページまで飛ばしてください。

②の道の駅たかのでございます。広島県庄原市でございます。人口約3万3,000人、予算規模が299億円となっております。

15ページを御覧ください。

こちら道の駅の整備に当たり協議会を設置されまして、加工品を開発するプロジェクトによりまして、オープンまでに75品目の新製品、地元の食材を生かした製品を開発するというところで、行政、市民団体、自治区、町内業者など市を挙げて道の駅の整備に取り組まれております。現在の運営は第三セクターによって行われておりまして、100%庄原産にこだわっております。したがって、よくサービスエリアとか道の駅にあるガムとかジュースとかそういったものも、いわゆる一般で販売されてるものは、外の自動販売機は別ですが、道の駅の中で販売されるものに関してはそういった一般的なものはなく、庄原産のみということで大変こだわってやっておられます。

20ページを御覧ください。

③としまして、道の駅三矢の里あきたかたでございます。広島県安芸高田市です。人口が2万6,000人、予算規模200億円というところでございます。

23ページを御覧ください。

こちら第三セクターによる運営を行っておりまして、産直市場に関してはJAが、レストランに関しては民間事業者が運営されております。観光交流施設は観光協会の運営ということになっております。

道の駅の特徴としましては、写真が24ページにありますが、駐車場がいわゆるノーバック駐車場で、真っすぐ正面から前進で駐車できて、そのまま前進して出ていけるような工夫をされております。御高齢の方や運転に不慣れな方であっても車を止めやすいというような工夫がされておるような道の駅でございます。

28ページを御覧ください。

ここからが四国、徳島県の道の駅でございます。4か所目は道の駅いたの、徳島県板野町でございます。人口1万3,000人、予算規模は58億円でございます。

次の29ページの左側の写真を見ていただきますと、こちらの道の駅を含むこのエリアの面積が約4万1,000平米ということで、この赤磐市で今計画しております公共ゾーン、約4.5ヘクタールですが、同じぐらいの面積での道の駅ということで整備されております。

31ページを御覧ください。

こちらですが、道の駅の整備に当たりまして、町内会、地元企業、それから有識者によりまして委員会を設置して検討された結果、DBO方式といたしまして設計、施工、維持管理、運営を一括してグループ企業に発注するという形を採られております。運営に関しては、園芸グループの子会社が行っておりますが、この強みを生かされまして、地元のもともとある既存のスーパーなどとは品種を変えて、この品種を出荷していただきたいということで契約農家に御依頼されて、そういう地元との競合、旧来あるお店との競合を避けて販売されているという工夫をされております。

39ページを御覧ください。

5か所目が、道の駅くるくるなるとでございます。徳島県鳴門市です。人口約5万4,000人、予算規模が293億円ということでございます。

42ページまで飛ばしてください。

こちらにつきましては、日用品、日常品を買いに来られる地元商圈といいますかそのターゲットはもちろんですが、鳴門というそもそもの観光地という特徴を生かしまして、中国地方や関西地方からの観光客をターゲットにして呼び込みをされている。施設の設計段階から民間運営事業者を選定されました。ハートフル太陽で採ったような手法と似たように、先に運営事業者を選んで、その施設の整備の設計段階から運営事業者の意見を取り入れたということで、そのノウハウやアイデアを活用することで収益性や利便性を高めるといった工夫をされております。この運営事業者は、地元特産品を活用した商品開発によって地域商品のブランド力を高めるということを得意としておられて、効率的、持続的な運営を目指しておられます。農産物の産直市場については、道の駅に併設する形でJAにより運営されております。

51ページを御覧ください。

6か所目は、地元岡山県でございます。道の駅笠岡ベイファーム。岡山県笠岡市です。人口約4万6,000人、予算規模250億円ということでございます。

54ページを御覧ください。

企業グループによりまして施設の設計、建設を行った後に、市に所有権を移転して、施設の維持管理業務を行うPFI方式で事業実施されております。運営に関しましては、地元企業グループが行っておられまして、広大な干拓地に景観植物、ちょうど先般お伺いしたときにはヒマワリがかなり咲いているということで、その景観植物を目当てにお客さんを呼び込んでいるという工夫をされております。出荷の農家、会員数が約300名ということで、地元農家との連携ということもうまくやってらっしゃる様子でございました。

62ページを御覧ください。

最後7か所目が道の駅山陽道やかげ宿でございます。岡山県矢掛町です。人口約1万3,000人、当初予算規模が89億円でございます。

65ページを御覧ください。

こちら第三セクターによる運営で、矢掛町商店街のいわゆるその入り口に当たる場所にこの道の駅と駐車場を整備されておまして、こちらでは物販等は一切行っておられません。あくまでも、この矢掛町商店街の紹介をするという役割に徹しておられます。ここで紹介のVTRを流したりとか、あるいは地元のそういったお店の紹介をするようなコーナーがあります。こちらで案内をされているということでございます。

今回視察させていただきました7か所の御紹介をさせていただきました。それぞれの運営事業者については別資料にまとめておりますので、こちらにつきましては後ほど御確認いただけたらと思います。

前回の委員会では、運営事業者にこちらに来ていただいてということで御提案させていただいておりましたが、冒頭にも申し上げました、大変申し訳ないんですが、調整がうまくいかず御迷惑をおかけしております。今回は場所が近いということもございますので、ぜひ視察ということで御検討いただけたらと考えております。

こちらからの説明は以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

執行部から報告がございました。この報告につきまして、皆さん何か御質疑等がありましたら、いかがでございましょうか。

○委員（安藤利博君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 安藤委員。

○委員（安藤利博君） いろんなどころへ行かれて御苦労さんですけど、大体道の駅のイメージは物販とかどこも大体似たようなことですけど、私が一番知りたいのは、大体第三セクターとかが多いみたいですけど、その経営状態がどういうふうになってるか。作ったのはいいけど、後はそれだけの効果があったのか。そのあたりを教えていただきたいのが一番ですけど、その辺は先方は開示されなかったんでしょうか。

○委員長（金谷文則君） いかがでしょうか。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 場所によっては開示されてるところもあります。ネット等で見られるところもあります。安藤委員おっしゃられるように、今後視察等を行うに当たって開示してほしいということであれば、ネット等で見られないところにつきましては、先方に経営状況についてお伺いすることは可能かと思えます。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

安藤委員。

○委員（安藤利博君） 多分行かれたのは、成功している事例といたしますか、そういったところに行かれてるんだと思うんですけど、私は反対にやったのはいいけどうまいこといかなかったというところもやっぱり見ていただいて、原因が何なのかというところも押さえていただきたいんです。というのは、例えばですけど、たまたま私おととい、瀬戸内美術館、面白いトリックアートの展覧会やってたんですけど、そのついでに黒井山グリーンパーク、ブルーライン沿いですけど、そこに寄ったんですけど、もう商店は全部閉まっています。物販のところは若干開いてますけど。そうだったんで、ついでに瀬戸内市の議会、インターネット中継を見ましたけど、今年は漁協のほうからカキもやめると。経営状態はどうかなということで、市長の答弁ですけど、もう頭から赤字になってると、今年は。そういう状況らしいんです。

立地からいったら、その河本、岩田よりブルーライン沿いですから、あちらのほうが立地的には恵まれてるんじゃないかなと思ってたんですけど、そこでもそういう状態なんですよ。何でかなと考えたら、結局あそこはブルーラインを通っている人が寄るだけなんです。

今、岡山でありました笠岡のベイファームとか矢掛、これは道の駅とは称していますが、メインは今だとヒマワリ、もう少しすればコスモス、ベイファームのほうです。矢掛だったら町並み全体をメインに来られてると思うんです。だから、河本、岩田にすればそういったのがないんで、どっちかという黒井山グリーンパークに近いのかなというイメージがあるんで、そうするとその辺の経営状態というか、つくったのはいいけど後はどうなのかなというのが心配なんで、そういった事例というか、言いにくいのかもかもしれませんが失敗事例も当たっていただければなと思うんですけど、いかがでしょうか。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） おっしゃるとおりだと思います。ただ、視察ということになると、なかなか失敗事例を選んで視察を受け入れてくださるかということと、ある意味ぶっちゃけ話みたいなところがお伺いできるかというのは少し疑問があります。なので、そこは執行部のほうで、実はこの視察の⑥、⑦の視察というのが、中国地方の道の駅連絡会がございまして、そちらへ出席したときに、この2つを視察してまいりました。中国地方の多くの道の駅のいわゆる駅長さん、運営をされている方も来られておりまして、多少意見交換もさせていただきました。そういう中では本音の話というのでも聞かせていただいておりますので、少しそういうお話、ある程度まとめましたら、またこちらで御報告させていただけたらと思います。

確かに、新型コロナウイルスの関係でここ数年、今回紹介させていただいた最初の君田の道の駅ですけれども、こちらは温泉施設ですので、やっぱりコロナの間に完全に施設が止まったんだと。それを機会に、どうしてもいわゆる団体客というのが減ってしまったんですというようなことはおっしゃっておられました。だから、経営はかなり現在では苦しいんだということはおっしゃっておられました。ですので、そういった実態も多少お伺いはしておりますので、まとめ次第御報告をできる限りということで御容赦いただきたいですが、させていただけるんじゃないかなというふうには考えます。

以上です。

○委員長（金谷文則君） 安藤委員。

○委員（安藤利博君） 今説明いただいたんですけど、ちょうど山陽新聞にも出てました。その道の駅の中国連絡会ですか。これの講演された講師の説明とか、あるいはパネリストの、そういった資料をもし入手できれば入手いただいて、これは本当に生の声が出てるんだろうと思うんで、そういったのを見せていただければ非常にありがたいと思うんで、今まとめてという話

ですけど、できれば生の資料を見せていただければありがたいので、その辺御検討ください。

○委員長（金谷文則君） まあ、よろしくをお願いします。

治徳委員。

○委員（治徳義明君） ただいまの御説明をお聞きしまして、単に道の駅といってもコンセプトが重要だというのはよく分かったところであります。どこをターゲットにするとか。赤磐市の場合は、岡山市という大きな町の隣接地に想定されてますし、また大きなインターチェンジがある。そういったところでしっかりコンセプトをきちっとやっていかなきゃ、今安藤委員の御指摘あったように失敗する事例になってくるのかなというのがありました。

その中で1点確認ですけども、道の駅というても見る限り農産物が多いんですけども、365日を考えたときに、例えば赤磐市は桃やぶどうといっても7月、8月、9月、12か月均等に集客していく取組というのは、この視察の中でどういう話がありましたでしょうか。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 例えばということですが、今安藤委員もおっしゃいましたけど、笠岡ベイファームあたりでは、いわゆる景観作物を四季でいろいろ変えていくような、これは広い土地によって許されるものだと思うんですけど、写真で見ただけですと、59ページの左側の写真にA B C Dということでエリア分けがあって、今こちらの畑では開花中ですよ、こちら準備中ですよということで、今は夏だったのでヒマワリでしたけれども、恐らく品種がずっと変わって行って、四季、それぞれの時期で花が楽しめるというような工夫はされてると思います。

それから、2か所目のたかのですね、ちょっと戻らないといけないんですけど。19ページに、これもこちらでまねのできる話ではないんですが、たかのはいわゆる豪雪地帯ということで、雪が降るという特性を生かされた雪室といつて、天然の雪をずっとストックしておいて天然の貯蔵庫として、中にも入らせていただいたんですが、本当に冷たい状態でした。いわゆる天然の保冷庫になっています。こういったことで製品を長もちさせたりとか熟成をさせたりというようなことと、それから冬にまさに販売するものがないということを前提に、加工品なんかでそれを補うような工夫をされて、これがいわゆる行政だけではなくて地元の農家であるとか地元企業であるとか、そういったところがみんなで知恵を出し合って、本当に総力を挙げて年間で売上げを落とさないような工夫というので運営をされてるというようなところもございました。全部が全部というところじゃないんですけど、そういった工夫をされてるところも参考にはなるんじゃないかなということでは感じました。

以上です。

○委員長（金谷文則君） 治徳委員。

○委員（治徳義明君） ちょっと1点提案もよろしいでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 御意見ならどうぞ。

○委員（治徳義明君） 産業建設常任委員会で昔道の駅を視察させていただいたことがありまして、山口県周南市だったと思うんですけども、農産物がたくさんあって、お話を聞きましたら、当初大型農家を対象に集める予定だったけれども、実はその市は小規模農家がたくさんあって、海岸べりでサラリーマンしとって、定年になって奥側手の農家に帰ってきて小規模農家をやられている方がたくさんいらっしゃって、そういった人たちのためにということで集荷システムをヤマト運輸と提携をして、1箱でもちよっとでも集荷を毎日できるようなシステムを改善して、ほぼ小規模農家の農産物を販売してるんですというお話でした。赤磐市も小規模農家たくさんあるし、青空市とかいろんな絡みがあるから一概には言えませんが、そういったことの小規模農家を支援する意味でもそういったシステムを検討していくべきではないかと思しますので、意見として申し上げておきます。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

他にございませんでしょうか。

保田委員。

○委員（保田 守君） 山陽道やかげ宿ですか、矢掛丸ごと道の駅をコンセプトに、産直物販、産直がないというのもいろんなところ行ったんですけど、まず産直で売るところがどこにもあります。飲食店もあります。こういう大本の考え方で進めるところが、結果としてうまいことそこが農家の人がおり、商売しとる人がおり、飲食店の人がおりという形の中で、うまいこと運営できて繁栄しとるのかなということが一つ興味があるんですけど、まあこの辺、視察に行ったときにどのように感じましたか。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 今保田委員おっしゃいましたけど、物販のない道の駅って果たして成り立つのかなというのは、正直思います。だから、なかなか自分の頭を切り替えるというのが難しいのですが、この視察に行かせていただいたときにも御紹介があったんですが、つい一週間内輪ぐらいたと思いますけど、山陽新聞を見てますと、この商店街にあるクリームソーダでしたか、そのようなお店が何軒かあるらしいんですが、かなり繁盛してるんだということで新聞記事にも載っておりました。この道の駅がそれに寄与しているのか、どのくらいどうなのかというのはもちろん分かりませんが、いわゆるその観光としての呼び込みの窓口ということでは機能してるんじゃないかなということは感じました。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

他にございませんか。

永徳委員。

○委員（永徳省二君） さっきコンセプトの話があったんですけども、今回の赤磐の道の駅が、どういう目的で道の駅をつくるのかというところがすごい重要であって、その道の駅を目的に集客するのか、それとも大規模倉庫店の販売店に来てもらうときにたまたま寄るための道の駅なのか、それとも温泉観光施設に来るためにたまたま寄る道の駅なのかというところの、もっと根本的なところをちゃんとオープンにして、市はどういうふうに全体像を考えてるのかというのをはっきりさせないと、ある意味今ここで道の駅の会話をしても、ここに温泉をつくるのか、観光施設をつくるのか、単なる販売店にするのかというところが全くもう見えてこないで、僕はそこをはっきりさせるべきやと思うんですけどいかがでしょうか。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 全くおっしゃるとおりだと思います。正直申し上げますが、私の中にはこうだという答えはありません。なので、こういった視察を重ねさせていただいて、いろんなタイプ、今の矢掛町は特徴的だと思いますが、笠岡市も視察の中では言っておられました。いわゆる干拓地ですから、かなり干拓地の中をどこまで行くんだろうっていうぐらい市街地から離れたところにあります。なので、整備をするときには、市議会の中でもかなり反対の声があったそうです。そんなところにつくって誰が行くんならというような反対意見がかなりあったようですが、結局、今では目的地として成り立っている。これは道の駅だけではなくて、その周辺の景観作物ということを目的ということになっているようですが、そういう付加的なものも含めてどういったものが本当にいいのか、この場所にどういった規模のどういったものかいいのかっていうのは、これから皆さんにも御相談させていただきながら、そのコンセプトというのは、本来であればコンセプトがあって計画でしょっておっしゃられるかもしれませんが、そのコンセプトから、この委員会の中でもつくり上げていけたらなど。ぜひそのために皆さんのお知恵をお借りできたらなど考えております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

今道の駅のことに特化して話をしているのですが、その道の駅の話ですが、最初私が申し上げたように道の駅の部分というのは本当にこんな小さいところの部分で、今回はその立地適正化計画というか赤磐市の町全体をどういうふうにするかという、赤磐市の大きな計画変更に向けてのことです。

特に、ちょっと忘れとられるかもしれませんが、3つのゾーンで、公共的なゾーンというので道の駅を整備しましょうというのが今1つの話であって、その両脇には産業振興ゾーン、そういう形で企業誘致をしましょうということに多分なるんであろうと思われるにぎわいを創出するエリアをつくらうと。それから、その今の公共ゾーンの隣には、もう一つは生活を便利にしましょうということで、多分これはどっかのスーパーとか、それから大きな量販店の

ようなものをつくろうというもくろみがあるんじゃないかなと。

それからつないだところの延長線上には市役所がある行政ゾーンという形で、そこにもう集中をしましようということで、小さい町をそこにつくるんだというような計画を立地適正化計画案として、県、国に上げていってるというのが現状でして、そのことで、そこだけでいいのかというので大きなそこが問題だということで、はっきり言ってこの委員会で、じゃあ赤磐市の全体の発展、にぎわいをどういうふうにするのかというのをもう一遍考え直さなきゃいけないということをやっているんで、道の駅については道の駅の今のどこかそういうところがあるなら視察をする。

だけど、今のところは、道の駅単独の話ですけど、うちは考えなきゃいけないのは、道の駅というのを核とするのかどうかという問題で、要はその周りとのバランスがあって全体で進んでいく、そういうところの視察、それから行政が考えて何かをつくっていったと。それを勉強していかないと、果たして今の計画がいいのか、おおよその計画はこういうものをやりたいという計画で、予算をつけて今進めていってるんですけど、具体的にその中をじゃあどういふものに進めていくのか。

もうはっきり申し上げると、ちまたではコストコという会社がここに来ますというのを市長が言った。それから、市長は言ってない。でも、それは議員には言った。議員は団地の中でこれが来ると言った。本当に来るんですかということが、私のところにも話が来てます。それから、Nとかという企業がここに来ますというのが、まだ公に委員会の中では何も話されてもないのに、それからある特定の議員たちの中にそういう話が出て、市民にも話が行ってる。これは事実です。

それから、もう一つ大きな問題は、このエリアにはあるスーパーが来たいという話が市にあって、その中でもう事前にその土地については手つけが打たれていると。これはもうどなたも聞いておられる周知の事実だと思います。

そういうことが本当なのかどうかということも、この委員会の中で、うわさであればそのうわさは消してもらわなきゃいけない。だけど、本当にそんなことがある場合に、この場所に公共の事業を誘致してやっていっていいのか。それから、公の国とか県にそういうお願いをしていっていいのかという大変重要な問題を伏せた中で、物が進んでいいわいいわとなっています。

だけど、今日の時点としては、みんなが議会の中では、2,300万円か、この計画についてのオーケーを出して、予算もつけたというのは事実ですから、我々議員としてもその責任を持った中で、物を進めていかなきゃいけない。これはもう私たちの使命です。

そういうことを何かオブラートに包んだ形にするんじゃなくて、本当に赤磐市のためになることをするんだしたら、そういう問題は全部駆逐して行って間違いないものにしていかないと、もう意味がありません。だから、最初に佐藤委員もおっしゃられたように、本当にここでいいのかというような原点に戻ることになるかもしれませんけども、進んでるものは進んでも

らえればいい。だけど、今もう一遍みんなで考え直さなきゃいけないということがあるということ
は事実なので、これを後ればせながらでもこの委員会の中で、消すものはちゃんとしっかり
根拠を持って消していくというようなことをお願いしたい。

その中で、今道の駅をやるという予定になってるので、その道の駅については、今日視察を
いただいたところを我々もやっぱり勉強はするべきだから、どことどこ視察に行こうという
のをできたら今日は決めていただいて、無駄のないようにしていきたいと思います。そのよう
に御理解いただけませんか。

佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 私も言いたいことはたくさんあったんですけども、ほとんど委員長が
言われたんですけど、1点だけお尋ねをさせていただきたいんですけど、私は三好市の道の駅
と安芸高田市の道の駅、これは行かせていただいて見させていただいております。その中で、
道の駅を設置しておる設置場所、これがどういう場所に設置されておられるか。利便性のいい
ところに設置されておられるんだろうと思うんですけど、周辺に商業施設等々があるかない
か。そういう施設があるところには、私は道の駅というのは設置されていないと、どこの道の
駅を見てもそういう場所には設置されていないという状況ではないかと思うんです。そういう
ことを含めて、設置場所の問題についてどういう把握をしておられるか、御検討された結果を御
報告いただきたいと思います。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） おおむね今回視察させていただいたと
ころに関してはおっしゃるとおりです。ただ、唯一鳴門の道の駅に関しては、観光の場所という
ことでしたので、割と町なかにございました。あとのところは、今佐藤委員おっしゃられるよ
うに、いわゆる道路の休憩というようなところにつくられてるところが多くございます。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

もう一遍よく冷静に考えていただいたら、今の道の駅っていうのじゃなくて、本来赤磐市が
計画したかったのは交通結節点としての、ここにバスターミナルのようなものを持ってきて、
ここで交通の中心地、ハブのような形でやっていくと。それをやりたいがためにこれを持って
きたというのが最初の話だと思うんです。それに、ただ駐車場とかターミナルだけでは何の興
味も持たないので、それに物を販売したりできるようなものとして道の駅を設けましょうと。
道の駅という形のものの、赤磐市の単市でそういうものを整備するのはなかなか、交通結節点
のターミナルとかができないので、国の何か補助の事業がないかという中で、合わせてできる
ものは今の道の駅と。それでやっていこうという形になったということだと思うんです。

だから、今、ほかのところにある物販をすとか地域の農産物をそこでメインに売っていく

がための道の駅では、赤磐市が計画されてんのではないんだと私は思ってるんです。だから、JAとか一般の農家とかそういうところとの事前の協議とか、それからスーパーマーケット、大きな小売業の皆さんとの協議をきちんとしてないまま、今ここで道の駅という名前を載っけてあるということだと思うんです。

それ皆さんどうでしょうかね。私が今理解してるのは、そういうふうに思っておりますが。

松田委員。

○委員（松田 勲君） 今委員長が言われたとおりでと思います。もともとは赤磐市の交通網で言うと、本当に岡山向きとか、山陽地域というかネオポリス、山陽のあたりは路線バスがきちっと通っているけど、ほかの地域は通ってなかったりするということもあって、市民バスを出しとるんですけど、やっぱりそういったことが、まずその拠点をつくることによって、高速バスもつながってないからそういった部分もつなげていくという意味では、交通網になるためのバスステーションというのがもともとあったと思うんです。道の駅はその後聞いた話は今僕も委員長に言われて、ああそうなんだというのは、流れは担当委員会でないんで私は分からなかったんですけど、さっきコンセプト等の話もございましたけど、やはりいっぱいいろいろ出されてるんですけど、正直見てないし、どれがいいのかということも分からないし、ただ赤磐市、あの地域にとってはどういったものがいいのかということをもう少し考えた上で進めていかなくちゃいけないとは思いますが。

だから、視察が先なんか、コンセプトをつくっていくのが先なのか分からないんですけども、ただいろんなところを近場でもし見れるんだったら、見た中で参考にしながらそのコンセプトをつくっていくということもあるかなと思います。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。そのとおりでと思います。

それから、もう一つ忘れてはならないのは、この赤磐市の計画というか、立地適正化計画をつくっていく一番大本は、というかスローガンとして市が上げてるのは、赤磐市はベッドタウンであるということから脱却するというのがスローガンです。僕は赤磐市は言っちゃ悪いけど、岡山市近辺とかのベッドタウンから逸脱することはできないと思うんです。団地があるから。だけど、赤磐市はそうじゃなくて、コネクテッドシティという形で、それに脱却していくというのをスローガンとして市が上げてるんです。

だから、それに向けての計画なので、本当にここへ我々が今までしっかり議論をしたのかどうかという問題もあるんですけども、それをやるということが大前提です。だから、ベッドタウンじゃないんです。団地があっても団地はベッドタウンじゃないんです。ということ、ちょっと理解してもらわないと、全くこの計画というのは、もうはっきり言ってこんなのはおかしいじゃないかというところへまた戻ってしまうことになるんです。

だけど、我々議員としては、ここをコネクテッドシティにするんだというところに賛成反対の人はありましたけども、多数決上は結果としてはそうするんだということになってしまっ

たんです。ということは、大きな問題は、それを中心街として発展させていくと、外の旧来の吉井や赤坂の交通の便も悪い、そういう人たちもそこに住んでるのに、その人たちはじゃあどうやって生活をしていくのか。その人たちも市民である。その人たちの足やら生活をどうやって守っていくのか。安心・安全を守っていくのか。このことをしっかり議論して、その中に盛り込んで、初めてこの今の計画がオーケー、ゴーということに、赤磐市の市民の責任として、議員の責任としてそれをやらなきゃいけないんじゃないかと思うんです。この委員会として。

だから、もう一遍、元へ戻って話をしてもらわないと、今言いやすいから、道の駅になったら簡単な事例があるから、どんどん道の駅、道の駅ということで、まずその中の一部のことを調べてもらって、今日もここへ皆さんにお諮りをするような形で出してるんですけど、本来はもうそれはもうこの小さいものです。そのことをちょっと御理解いただきたいと思うんです。お分かりになってらっしゃると思うんですけど。

安藤委員。

○委員（安藤利博君） いや、もう大賛成ですけど、実は今日資料を入れていただけてますけど、その道の駅については、道の駅整備に係る事業手法検討調査業務についてということで、委託先をそれぞれ書かれています。要するに、中身はまだ全然何にもないんです。道の駅をあっこにつくるということだけの話で。だから、私がさっき過剰反応だと言ったのはそういう意味で、何も出てないんだから、そんなに今声を荒げてもしようがない。出てきたところで議会としてチェックさせていただくということでもいいんだらうと思うんです。まずはこの委託先で、競合事業者への対応とか先進事例を聞くとか、何にも中身はない。今からこの業者に委託するという段階なんで、それが出てきたときに議論させていただければいいと思うんです。

それで、委員長が言われてるその周辺のことについて言えば、私はこの前から感じてるのが、赤磐市がちょっとイメージしにくいかわかりませんが、岡山市のミニチュア版になっている。というのが、山陽地区が旧来の岡山市で、今の岡山市は岡山市と御津町、建部町がくっついて、政令都市になるためかどうかはともかくとしてくっついてます。けど、御津の方に聞くと、岡山市になって何もいいことなかったよという話です。これはまあよその地域ですけど。だから、赤磐市のこと……。

○委員長（金谷文則君） まあまあ、それはちょっと。

○委員（安藤利博君） いや、今進めようとしているのが、山陽地区が旧来の岡山市、赤坂、吉井は御津、建部……。

○委員長（金谷文則君） 安藤委員、それは次の議題のところで行きましょう。協議のところでね。

○委員（安藤利博君） はい、分かりました。

○委員長（金谷文則君） 今、私が要らんことまで長く言ってしまったので、そこまで安藤委員のような発言になってしまったんですけど、本来協議事項1番目の道の駅ということについて

て御報告があつて、そのことについて視察とかそういうことをやりたいと思うんですが、いかがでございましょうかというもう一遍本来のところへ戻っていただいて、これを一つ済ませていきたいと思うんですが。すみません、私が拡大して言ってしまったので、皆さんあれになったと思うんですが、いかがでしょう、この視察について。

永徳委員。

○委員（永徳省二君） 委員長が言われたように、交通結節点、ハブとしての機能だと言った場合には、この7つのうちのどの道の駅がそういう結節点の役目をしている道の駅なのか。それとも、この7つ以外にそういう結節点としての道の駅が県内あるいは近隣県にあるのかどうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁をお願いします。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 今回の7か所の道の駅でいうと、いわゆる交通結節点となる道の駅はありません。ちょっと今日御意見いただきましたので、こういった交通結節点ということコンセプトの中に含まれている道の駅っていうのがあるのかどうなのかというのは、探させていただきたいと思いますが、4つ目の道の駅いたのです。

こちら道の駅いたのが、高速道路のインターとインターのちょうど間にありまして、こちらの29ページの左側の写真を見ていただきますと、写真の一番下に農業用のハウスが見えてると思いますが、その少し上のところが高速バスのターミナルになっております。その右側に駐車場、こちらがその高速バス用の駐車場スペースということでございますので、こちらがいわゆる交通結節点としての機能を含めた道の駅だということと理解しております。

以上です。

○委員（永徳省二君） ありがとうございます。

○委員長（金谷文則君） どうでしょうか。

福木委員。

○委員（福木京子君） 今御説明があつたんですが、赤磐市の場合、ずっと疑問に思ってるんですけど、インターチェンジあれして、あのバスの停留所ありますよね、すぐ近くに。大分離れているでしょう、これ。場所的に。

それから、あと、結構あそこは観光で周辺からも皆両備バスやいろんな観光バスで高速で行って、集中してるから要求があるんですよね。だけど、それぞれの業者がそれぞれの場所を既に確保して、いいように行かれてるわけですよ。そういう高速や観光バスがあつて、あとまた市民バスやいろいろあるんですけど、結局このバスターミナルのイメージというのが、この場所で湧かないんですよ。じゃから、本当にそのバスターミナルがどこへあつて、本当に市民にとっていいのかという辺がまだ分かりませんね。一応意見を言うておきたいと思います。

その辺を説明願いたいと思います。

○委員長（金谷文則君） だから、それについて今予算をつけて、こういう格好でどうだろうかというのを今回つくってもらって、それで多分出てきますから、今福木委員が心配されてるようなこととか、先ほど安藤委員もおっしゃられたり、永徳委員もおっしゃられたようなところが本当にちゃんと反映できてるかどうかというのをこれでチェックをして、それについての意見を我々としてはまとめて出すと、こういうことしかできないと思うので。

ですよね。執行部、いかがでしょうか。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 高橋部長。

○建設事業部長（高橋 渉君） いろんな御意見をいただいておりますけども、先ほど委員長おっしゃられたとおりで、ここ今30ヘクタールという大きな新拠点という全体の面積、ここをもともと従来の現行の総合計画の中でも先ほど委員長おっしゃられたんですけど、交通結節点ということで、この河本、岩田地区が位置づけられています。これは何かというと、今赤磐市の中に、普通の町ですとJRの駅があって、そこが中心となるんですけども、そういう中心がない。だから、駅前のような交通が集まるような要の部分をつくろうということで、総合計画に從來から位置づけられてると思っております。それでそれを踏まえて、今回より具体化するという意味で、そのためには都市計画の変更が必要ということで、立地適正化計画を今つくっているところなんです。

ですので、一番芯の部分は交通結節点です。その交通結節点と隣接した形で、先ほどからあるにぎわい交流ゾーンということで企業名云々の話もありましたけども、このあたりはすいません、ちょっとこの場で答弁はできないので、また持ち帰って執行部で議論させていただいて御回答とはなりますが、にぎわいを創出する、働く場となって人が集まるそういうエリアと、すぐ道路を挟んで面と向かったところに公共ゾーンという形でやっぺいこう。それでそこで交通結節点はあるんですが、せっかくならばそこに人が、にぎわいゾーンが目の前ありますんで、にぎわいゾーンと対面してそういったゾーンに来る人を受け入れるようなものをつくる一つの手段、手法として道の駅というのが事業手法的には一番いいのではないかとということで、これまで進めさせていただいてます。道の駅ですと、非常に認知度も大きいので、よそから人を呼ぶためにはその冠があるというのはかなり大きいと思いますし、補助でもお金が取ってこれるといったメリットもあるので、今んところはその手法としては道の駅がいいんじゃないかということでここまで進んできてます。

それで、この視察の段階で、先ほどいたのの事例もありましたけども、必ずしも交通結節点とくっついたものを視察しないといけないということもないと思っております。それは、それぞれが機能がちょっと違うので、交通結節点であれば交通結節点としてちゃんとした、それはそれでまた見た中でいいもの見たらいいでしょうし、そのにぎわいゾーンの隣にある何か市として

にぎわいを新たに創出するという道の駅っていうことであれば、それはまたちょっと手法が違うので、必ずしもセットで見る必要はないかなと思ってる中で、今執行部としてはこのあたりがにぎわいを生んでいい道の駅なのかなと。悪い道の駅についてまた検討いたしますが、いいものについてはここかなというので今日提案させていただいたところになります。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） そのバスターミナルの話が出ておるんですけど、最初からそのバスターミナルが一番じゃなかったんです。要するに、道の駅をするために、どういう形で道の駅を進めるのが進めやすいかという考え方の中で、農業振興地域を解除しなければならない。農業振興地域の解除をするためにはバスターミナルを併設するということを検討材料の中に入れたらどうなるということの中で、バスターミナル構想がその中で出てきたと。一番は道の駅なんです。道の駅をするためにバスターミナルを併設するという考え方が出てきた。

その中で、両備と下電はオーケーということで、バスターミナルの中へバスを入れますという話がありました。しかしながら、宇野バスは入れないと。その理由は私言いません。知っておりますけど言いませんけど、宇野バスが参入をしないということの中で、その話がなかなか前に行かなくなったというのが現状であって、今それが行かないんです。宇野バスが入らないということの中で、その話がなかなか前に行かないんです。といういきさつがあると。

○委員長（金谷文則君） それは旧山陽時代のあれでしょ。最初の。

○委員（佐藤武文君） 違います。

○委員長（金谷文則君） 合併してすぐのときか。

○委員（佐藤武文君） 赤磐市になってからの話です。

そういうことがあるんで、なかなかそういうように難しいいきさつがあるんで、恐ろしく執行部は宇野バスが入れない理由についてはよく御承知のはずです。私は言いませんけど。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。よく知っておられる話で。

まあ、でも今進んでるのは、ここへ道の駅、それから交通結節点のバスターミナルというのが計画上載ってるということでございますので、いろんなことが多分伏せて伏せてというところ、ちょっと黙っとかなきやとかこれを言わないほうがいいとかというようなことがあって、皆さん気を遣われているところがあって、本来ならざっくばらんに実際あって、問題があったら早く出して、それをもう消していくということをしないと、いつまでたってもあれは実はこうだったとか、本当はこう言わないほうがよかったとかそういうような話になってしまうんで、もうこの際、正直に皆さん思ってもらえることやら、ちまたでのうわさでもいいと思います。うわさはうわさでした。違いましたということもはっきりしていけないと、いつまでたっても解決ができないのが現状ですので、次回の委員会では、そういうことも含めてわだかまり

なく、それから隠し事なく物が進んで言えて本当によかったなど言うことができるように、前向きにみんなで進めさせてもらいたいと思うんです。

今日はその今の道の駅のことについて話がありまして、交通結節点のところと、それからまあそれなりの勉強になるかと思いますので、この四国方面の道の駅を視察するような方向で検討させていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

その後御意見は御意見でまた言ってくださりゃ結構ですけど。よろしいでしょうか、その決め事は。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） はい、それじゃあ、次回視察を執行部の皆さん、そっちの方面で計画を練っていただきたいと思えます。

それじゃあ、それはそのことで終わりたいと思えますが、安藤委員御意見どうぞ。

○委員（安藤利博君） その延長戦になるんですけど、先ほど言った瀬戸内市の黒井山のグリーンパーク、これは武久市長が社長なんで、何らかの形で実情を聞くという形は、この委員会から視察云々取るかどうかは別にして、やっぱり実態を教えていただくという意味で、一番近くなんでそんなに大げさに行く必要はないと思うんで、現状どうなのか、その辺はやっぱり。

○委員長（金谷文則君） それはじゃあこちらのほうで調査して、今度の委員会に間に合えばそのときに出すようにでも段取りをしたいと思えます。

○委員（大口浩志君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） 視察へ行くという前提でお願いがございまして。といいますのが、どういうスタイルを採られるのかは、相手との兼ね合いもありますしこれから詰められるんだと思えますけど、できればみんなで1か所というよりは、3班ぐらいにでも分けて3か所ぐらいへ行つて、なぜっていいますと、例えば、できて間がないような場所、それから3年から5年ぐらいたった場所、それから10年超経過したようなところ、それぞれ初期の目的と現状との乖離、いろいろあると思えます。今、行ってから気づく、ああこんなこともあったんだなということもあるでしょうし、この中にもありましたけど、こんなに最近できとったんだけど、もうてこ入れをするんだというようなことをマスコミ報道で聞いたる道の駅も載とったようなので、可能であればそういう時間軸に分けて3班程度で、視察の行き先を検討していただけたらと思えます。

○委員長（金谷文則君） はい、分かりました。それ、ちょっと検討させていただきます。

では、道の駅等視察については、ここで終わらせていただきます。

トイレ休憩必要でしょうか。なければ、次のその他の辺に移りたいんですが。

それじゃあ、そのまま進めさせていただきます。

協議事項2番目を上げておりますが、執行部から何かありましたらお願いいたします。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） それでは、③の事業手法検討調査業務内容という資料、1枚物の資料でございます。

先般6月議会におきまして、2,300万円の補正予算を可決していただきました。この調査業務を発注という手続に進みたいと思います。本日8月21日付で、この業務の発注プロポーザルによりまして、発注の手続の公告をさせていただきます。

この業務の内容でございますが、3番の業務内容というところで、まずは需要予測から入ってまいります。利用者、これは主に市民ということになるかと思いますが、あるいは市内で事業を営まれておられます事業者へのニーズ調査、先ほどからもお話出ておりますが、ここでこういうものをして成り立つのかというところの御提案、あるいは市民としてどんなものを求めているのか。これは道の駅ではございますが、道の駅だけではなく、約4.5ヘクタールの公共ゾーン全てに関しての調査ということでございます。それから、周辺競合事業者への対応について予測を立てていくと。

それから、(2)としまして、じゃあそのニーズあるいはそういったものによって、じゃあここにどんなもの、機能を備えていくのか、施設の規模についてはどの程度がいいのか。公共ゾーンの中の配置、あるいは交通結節点の配置というのがどういったところがいいのかということを検討してまいります。その中で、先進事例、この先進事例という中に恐らく成功事例もございましょうし、失敗事例もあると思います。これも調査していきたいと考えております。その上で施設の内容、規模、形態等、概略設計を作成する。それに伴って、概算事業費をはじいていくということになります。

(3)のところで、ここは先ほどから議論が出ているところでございますが、この道の駅というのは、公共ゾーンというものを道の駅と呼んでおります。公共ゾーンの整備をした場合の本市の経済効果、あるいは税収にどのように影響するのか、こういったことも検証します。それから、この道の駅、公共ゾーンを核とした市全体の地域産業の活性化につながる手法、どういった手法があるのかということも検討してまいりたいと思います。

(4)として、官民連携事業手法及び管理運営手法の検討。前回の委員会でも御意見ございました。やはり民間活力というものが欠かせないということは考えております。先進事例や、導入可能な事業手法案を抽出して、複数のそういった運営手法につきまして比較検討を行って、最適な手法を検討すると。

それから、(5)としまして、財政負担の算定ということで、従来ですと公設公営ということでありましょうが、そのやり方と比較して民間活力を導入した場合の事業費というものがどういったメリットがあるのかということで分析してまいります。

(6)としまして、整備・運営を希望する民間事業者、この公共ゾーンの形のイメージが出来

上がってきた状態で、本当にこの民間事業者、要は運営に参入していただけますか、施設整備も含めて整備、運営に参加していただけますかということで、意向調査を行ってまいります。

(7)としまして、事業実施に向けた検討という最終のまとめで事業スケジュール、それから官民連携事業の実施に向けました課題の整理ということで行ってまいりたいと思います。

予算計上のときにも申し上げましたが、執行部がこの委託事業者に、コンサル会社等になると思いますが、丸投げをして出来上がりを待つということではなくて、このそれぞれの段階段階において出てきました報告内容をこちらに提示させていただいて、逐一議論していただきたい。そうやって先ほどもございましたが、市のこの道の駅整備のコンセプト等についてもここで練り上げて、同時並行で練り上げていけたらなということで考えております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

他にございませんでしょうか。

福木委員。

○委員（福木京子君） これは今市が出してる案をつくるという前提でこれをはじめていくんですよね、この内容。まだ、今日の話の中でいろいろと出て、バスターミナルや道の駅やいろいろまだ検討しないといけないですよね。だから、まだ具体的に決まってない段階でも、事業内容を調査する。調査するというんか、ある程度市が出した案を基に調査するんですか。その辺が何かおかしいんじゃないかというふうに思いましたので、お願いします。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 極論を申し上げますと、これからニーズ調査から白紙の状態から始めていくということでございます。もちろん、今まで積み上げてきたものというのはございますので、本当の白紙ということではありませんが、この調査でつくり上げていくということでございますので、議論の中で、あるいは調査の中で、ここにこういうものを整備すべきでないという結論が万が一出るとすれば、そういう方向はもちろん皆さん納得づくでということになるのかもしれませんが、それは方向として可能性がありませんかって言われると、ないとは言えないと思います。

だから、いずれにしてもこの調査でもって、市としては当然この場所にこういったものをつくっていくという構想を持って臨んではおりますが、あくまで結論ありきということではなくて、調査を踏まえて皆さんの御意見も踏まえてつくり上げていくものだと考えております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

治徳委員。

○委員（治徳義明君） 分かりにくいんですけども、要は市としては、道の駅、公共ゾーン

とイコールというお話で、面積だけを提示して何の了見も出されてないということですかね。

○委員長（金谷文則君） いいんですか、今の質問、本当にいいですか、治徳委員。

○委員（治徳義明君） ゼロベースですかという。

○委員長（金谷文則君） それじゃあ、答弁をお願いいたします。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 高橋部長。

○建設事業部長（高橋 渉君） これ立地適正化計画の素案ですけど、これの中でも入ってるんですが、道の駅のイメージということで書いてます。これが何かといいますと、別に何かの配置がもうこうだとか決まってるわけじゃなくて、立地適正化計画の中でこれまで市の中で足りないものというものをずっと積み上げていってます。こういうものはもうある、こういうものはまだないというのを整理していってまして、その中でこの場所に欲しいものをここに今落とし込んで。これをベースに、この業務で、これはあくまでベースです。全部が全部入るわけではないと思ってますんで、欲しいもの全部ここにを入れてますので、それをベースに頭に入れてもらって、受注されたコンサルが、新たにいろいろなニーズとかを市民の方を含めて聞いている中で形づくっていってもらおうということですので、ゼロからの発進とまでは思っておりませんが、今の市としての考えは示した上で、それを頭に踏まえて業務をやっていただくと考えています。

○委員長（金谷文則君） よろしいですか。

治徳委員。

○委員（治徳義明君） 今この提示していただいている図面等を踏まえての御提案をいただくという話、了解しました。

○委員長（金谷文則君） だから、この我々のまちづくり調査特別委員会の中で、その出てきた意見があれば、逐次こういうことが出たよというのを執行部に出して、それが反映していただけるかどうかは出てきたものを見るという形になるので、この委員会もそれなりの役目があると思いますので、御理解をお願いしたいと思います。

佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 雨量計算はその計画の中に入っとんですかね。要するに、造成をすることによって、雨水がかなり川へ流れるというようなことが想定されるんで、田んぼじゃのうなるんで。その辺の雨量計算というのは計画の中に入っとるのか、入っとらんのか。その辺御答弁いただきたいと思います。

○委員長（金谷文則君） 答弁をお願いします。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 高橋部長。

○建設事業部長（高橋 渉君） 今お問合せの水の関係につきましては、この2,300万円のこ

の業務ではなくて、今都市計画の別業務を動かしておりますけども、その中で検討している最中ということになります。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） いやいや、何でその中に入らんのか。一番大切なことじゃないんですか。2,300万円の中に何で入らないのか。私はこのことが一番大切なことであって、これを抜きにしての話はできないと思うんです。その基本中の基本がその中へ抜けとるということに対して、これはちょっと憤りを感じます、私は。絶対これは必要なことですから。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 高橋部長。

○建設事業部長（高橋 渉君） 説明の仕方が悪くて申し訳ありません。今年度、今現在、コンサルが受注してやっています都市計画の手続の中では、そういう水の話とかの検討もしております、ただ役割がその今の都市計画の業務の中で、委員が御心配されているようなここにたくさんの雨が降ったらどう処理していくかといったようなことについては、検討してる最中です。業務が違うというだけで、そこをやらないというわけでありませんで、それはこの業務より遡って、今も既にやっている最中ということです。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

他にございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） それじゃあ、ないようでございますので、協議事項2番目を終わりたいと思うんですが、1つだけ。

これはまちづくりの委員会として勉強するべきだろうなと思ったのが、実はこの間、議長の主催の勉強会が新見市であって、そこでまちづくりについて西村先生の講演を聞きました。多数の方が行かれて聞かれたと思うんですが、この方は私はあんまり聞いてもとか最初は思ってたんですけど、最後の最後まで何か聞き入るようにその話を聞いたんです。どうやってその町を再生して、シャッター街を再生していったかとかというようなことを、本当になるほどなと思えるような話をされまして、いい講演だったと思っております。

せっかくでしたら、視察に行ったりするというのも一つの手法があるんですが、今我々が思ってるこの今回のエリアの事業について、できたら先生に一遍来ていただいて、我々の忌憚ない意見、話をしながら、こういうまちづくりの考え方がどんなもんなんだろうかというのを議会議員の中で勉強したらどうかなと思うんですが、この間新見市に行かれた方は結構おられますよね。いかがでございますでしょうか。勉強していかないと、まちづくりって全然今日気がつかなかったもの、それから最初にどういうことからスタートしなきゃいけないかというようなこ

とを初めて勉強したような気がするんですが、いかがでしょうか。

松田委員。

○委員（松田 勲君） 私も参加させてもらって、すごく参考になったなというのは思いました。ただ、あの方の津山市とかいろんなどころでの実例の話をして、さっき委員長が言われた空き地とか空き家とかそういったことで商店街とかそういったことの規制のところをこういうに再生していつてますよと、芝生化してこういった事業をしますよといういろいろ事例をいただいたんで、参考にはなったなと思います。

ただ、今新拠点の話の中で何もなくて今やってるんで、委員長もあのおきにも言われたと思うんですけど、うちに当てはめようと思ったらそういったところが今見当たらないというのが正直あるんで、1回ほとんど行かれていますんで、その話はもう皆さん聞いているんで、わざわざ来ていただいて説明というのはいかなものかなと思います。

○委員長（金谷文則君） 御意見ありがとうございます。

私が言っているのは新拠点だけのことについてじゃなくて、赤磐市のまちづくり、特に一番心配なのは山陽団地がいかに活性化するかということがずっと懸案事項で残ってまして、そのことと、今回はそのコアな部分の計画は今立てて、それから2,300万円で計画を立てていこうとするとすけども、その外に残された部分について、どうやってまちづくりをしていくのか。要するに、空き家があったり耕作放棄地があったり、旧商店街のあるエリア、吉井なんかもあります。そういうところをどうやったら活性できるのかということについての勉強をさせていただいたらなと思ったもので、今の発言でこの今計画しとるやつを検討してくださいという意味合いではないんです。でも、関連は当然ありますが、赤磐市全体が考えていることが、ほかの人の目からだったらどうなんだろうかという勉強をしたらどうかなということで申し上げたんで、少しスタンスが違っておるんですが。

福木委員。

○委員（福木京子君） あの先生は、都市計画の専門でしたかね。多分そういう分野の専門家だと思います。都市づくり、まちづくりの専門家なんで。それで、1年に1回、議員として研修みたいなのがあるでしょ。今年はまだ計画がされてないんですけど、できればそういういい先生をお呼びして1回ぐらい全員で勉強会、その一つのあれとしてはそういう先生もいいかなと私は思います。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。まあ、私が勝手に言っとることなんで。

安藤委員。

○委員（安藤利博君） 私も参加して非常に感銘を受けたんで、本当は友實市長に聞いてほしいぐらいの内容だったんですけど、最初に言われてたのは、国から指示が来て、全国で同じような計画をつくって、同じような商店街をつくっているけどスカスカになってるよと。非常に印象的だったんですけど。あの先生が来られるとすれば結構費用もかかると思うんで、そっち

のほうで来ていただければそれにこしたことはないと思うんですけど、私さっき言ったミニ岡山市じゃないですけど、この山陽地区はいいですけど、今委員長おっしゃった山陽団地、あるいは赤坂、吉井、これをどうやっていくのかっていうのは本当に大きな課題であると思うんで、私も桜が丘なもんで、具体的なことは吉井のほうはよく分かりませんが、やっぱりそういったことをしっかりと赤磐市としては詰めていかないといかん問題だろうと思うんで、そういったことにアドバイスをいただけるような先生がいらっしゃるんであれば、可能であれば私はありがたいなとは思いますが。

○委員長（金谷文則君） では一遍費用とかそれからどういうことをできるかできないかということもありますので、一遍事務局とその先生に聞いてみて、それが私たちのニーズに合うものなのかどうなのかというのを確認して、それで一つの案がまとまりましたら議長へお伺いを立てさせていただきたいと思うんですが、検討させていただくのでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） それじゃ、それができたら、また議長へ御相談させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

他にはございませんですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） 休憩なしで申し訳なかったんですが、あと、本日出席されてない原田委員から、このまちづくりについて自分はこう考えるんだというペーパーをまとめられとんのが1枚ありますので、本人がおられないところでそれを討議、議論するというわけにはいきませんので、それをコピーしたのがありますので、今日皆さんへ1枚お渡しをしておきたいと思っております。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） じゃあ、皆さんへお渡してください。

それじゃあ、配り終えていただきましたら、これで取りあえず読んでいただいて、こういう御意見をお持ちだということですので、そのことについて本人の口からじゃないと、多分いろんな意味合いのこともあつたりして難しいかと思っておりますので、また次の機会にその他か何かのところでお発言をいただくということで処理させていただきたいと思っております。

それじゃあ、そういうことで、本日の委員会を終了させていただきたいと思っております。

どうもありがとうございました。お疲れさまでした。

午前11時41分 閉会